

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階フロア)

事業所番号	2790300079		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから木田元宮		
所在地	〒572-0822 大阪府寝屋川市木田元宮2丁目6番13号		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年9月に開所して以来、地域運営推進会議や地域奉仕活動に参加したりボランティアに協力して頂き、概ね良好な関係を続けています。昨年度より寝屋川市の福祉事業である「鍵預り事業」に協力させて頂き、木田地区の鍵預り所とし、地域の信頼を得ています。

法人名「カームネスライフ」の「利用者が心身ともに穏かに安心して楽しく暮らす」の由来に沿って、このたび事業所の独自理念として「入居者中心の医療・看護・介護」「地域社会への貢献」「研究と向上心を持つ」「和を尊ぶ」を新しく作り、認知症ケア専門士で豊富な専門知識と多彩な経験と多くの人脈を持つ管理者兼館長を中心に全職員がその実現に向けて取り組んでいる。利用者毎に担当制を引き相互信頼関係の構築に努め、一人ひとりの暮らし方についての思いや希望を散歩や入浴等のゆったりと寛いだ個別ケアの中で本音を聴き取り、関係者皆で話し合っ本人本位の介護計画を作り毎日を穏かに安心して暮らせるように支援している。内部及び外部研修に積極的に参加し、職員のスキルアップを図っている。管理者の認知症ケア専門士としての豊富な知識と経験を地域社会に大いに活かすことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念に基づき職員の共通意識となって現在に至っていますが、より簡潔に行動に結びつく表現となるよう理念を考案中です。	今般、職員皆で話し合っ事業所の独自理念を「入居者中心の医療・看護・介護」「地域社会への貢献」「研究心と向上心を持つ」「和をと尊ぶ」と決め、管理者と職員は日々その実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度より鍵預り事業への参画をして、より地域貢献を実践しています。	自治会長及び民生委員は事業所の運営に理解があり協力的である。秋の「レールフェスタ」「敬老会を兼ねた福祉祭り」「夏祭り」等の地域行事に利用者と共に参加し、事業所主催の大正琴等の楽器演奏「音心の会」に地域の人を招待する等、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設をオープンにして気軽に訪問や見学して頂いています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度行い、自治会の役員の方、地域の方、家族の方など多数参加して頂いています。ご意見・ご要望をお聞きし、サービスの向上に活かしています。	地域包括支援センター職員、自治会役員、民生委員、家族の参加の下、隔月ごとに開催している。事業所の運営状況を報告すると共に課題についての意見・アドバイスを受け、利用者のサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通して、情報を共有する場を設けています。各個人でケアマネ連絡会・施設連絡会などに参加しております	高齢介護課や生活保護課の担当者と緊密に連絡を取り、困難な事例についてアドバイスを受けたり、新しい情報を得ている。同業ケアマネジャーの連絡会・施設連絡会にも積極的に参加し、情報交換と相互協力を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等を含めての施錠は内外の安全確保を含め建設時よりテンキーを外す事は不可能と考え、日中は出来る限り開放して見守り強化に取り組んでいます。	身体拘束の具体的な行為を研修やオンザジョブトレーニング(実務訓練)で正しく理解し、身体拘束をしないケアに努めている。日中は見守りを強化して出来るだけ玄関を含めてフロア間も施錠しないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修などを通して、学習する機会を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修する時間を持つことが難しいですが、入居者様が利用されている権利を知り少しずつ学びを深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を照らし合わせながら、説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂いた際や、面会に来所された際などに随時意見を頂くようにしています。行事計画を伝えたり、ご家族様へのお知らせを書く為のボードを設置しています。	近辺からの入居者が半数近く居て、家族の訪問も比較的多い(毎日の人もいる)。その来訪時や2~3ヵ月毎開催の施設行事への参加時に意見・要望を丁寧に聴いている。訪問の少ない家族にはホーム便りや電話で暮らし振りを報告すると共に意見・要望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き、職員間での意見交換が活発にできるようにしています。会議での意見や提案は、運営に反映されるよう努めています。	毎月の全体会議・フロア会議や毎日の申し送り時に気軽に意見・提案が出来る雰囲気づくりをし、管理者とリーダー、職員間のコミュニケーションは良く取れている。職員の意見・提案は積極的に運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人諸規定(給与規定、服務規程等)に基づき、個々の状況に応じた労働契約を交わしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の研修会の参加や、事業所単位でのミーティングやケア会議を通して、職員の質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会や研修への参加を通じ、交流を行っている。また、各施設間での情報の共有化により、サービスの質の向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接を行い、ご本人様の意見を傾聴する場を持っています。また、出来るだけ体験入居して頂けるよう勧めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族様の意見を傾聴する場を持っています。また、サービスを利用する前に出来るだけホーム内を見学して頂き、疑問点や不安な事について事前に相談して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーなどが多面的に本人様と家族様のニーズについて話し合い、その時最も必要なサービスの利用ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の様々な場面で、職員と利用者様が互いの経験や知識を活かし学び合っています。成育歴や趣味やっていたことを取り入れ残存能力を継続できる支援に心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を共に支援していけるよう、随時相談・報告させて頂くようにしています。また、一緒に外出などができるように心身の状態把握に努め援助体制をとっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設をオープンにし来て頂けるようにしています。買い物や外出も気候や天気によりに勧めています。	友人や自宅近辺の知人の訪問を歓迎し、馴染みの関係を継続するように支援している。かつて行きつけだった店への買い物や自宅近辺や墓参り等への遠出も職員が施設の車で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関係性を保てるように職員がきっかけ作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去された方に対しその後もお見舞いに行きご本人や家族様ともお話しさせて頂き職員間での情報を共有しています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、本人様の思いを汲み取るように努力しています。	一人ひとりの生活歴や暮らし方の思いや希望を纏めた独自の「コンパクトアセスメント」を基に、その後の新しい希望・意向は日々のケアの中、入浴や散歩等の個別対応時、ゆったり寛いだ時に本音を聞いて、計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際のアセスメントを通して本人様の情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間を通してのケア記録の記入と毎朝のミーティングで申し送り連携し現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、家族様から得た情報を基に、ケアマネージャーが中心になりサービス担当者会議を開き、介護計画を作成させて頂いています	計画担当者を中心に担当職員、フロアリーダー、管理者で、モニタリング(状態の測定・評価)の結果と介護記録、家族、医師の意見を基にカンファレンス(検討会)を行って本人本位の介護計画を作成している。短期は3ヶ月、長期は1年を基本に目標を設定し、状態の変化があればその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を通して職員間での情報の共有化を図り、サービスの向上に活かしています。新規や問題行動があるときはセンター方式の24時間シートを使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本当に必要とされているニーズを把握出来るよう、日々本人様やご家族様とコミュニケーションを取り、柔軟な支援が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流が図れるよう、地域での行事に出来るだけ参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関の説明を行い、往診での受診を依頼しているかかりつけ医で診て頂いていますが、特別なものについては、今までの受診医院での受診を続けて頂いています。	利用者・家族の意見で決めており、協力医療機関の内科は2週間に1度・歯科は毎週・精神科は2ヶ月に1度と往診を受ける事が出来る。今までのかかりつけ医へは家族の支援で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状態について主治医に随時相談し、併設の小規模多機能の看護師にアドバイスを聞いています。同法人内の他施設の館長(看護師)にも館長を通じて相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、病院との情報交換に努め、退院後も連携が取れるよう関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際、事業所の方針を説明して同意を得ています。また、身体状況等の様子を定期的にお話(連絡)し、お互いの連携を図っています。	契約時に利用者や家族に重度化や終末期についての事業所の方針を説明し同意を得ており、身体の状態に変化があれば、主治医や関係者と話し合い支援に取り組んでいる。今までに看とりを経験しており指針の作成・職員研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿い、出来るだけ多勢の協力が得られる様連絡体制を取るようになっています。状況に応じ緊急搬送を第一としています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しています。避難訓練も実施しています。	災害マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している。水・アルファ米など非常食品の用意がある。	年2回の訓練以外にミニ訓練を多くして日頃より災害時に即対応出来る実践力を身に付けることと運営推進会議等で近隣住民に訓練への参加を呼びかけ協力体制を構築されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い、入居者様の人格を尊重したケアの自薦に取り組んでいます。また、個人情報への扱いにも注意を払っています。	利用者の人格を傷つけないよう言葉遣いに気を付けている。接遇は法人研修や外部研修に参加し職員間で共有し対応している。個人情報の取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自分の思いを自由に発言できるような環境作りに努め、自己決定出来るような支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、日々の入居者様の希望や状態に合わせた個別対応が出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の趣味に合わせて、着る物やお化粧品などを楽しく頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の出来る範囲で、職員と共に食事の準備や片付けをしています。また、自分達で作った野菜を収穫して食べる事も楽しみの一つになっています。	材料は食材業者より購入し調理担当者が調理している。利用者の希望を聞き選択メニューにする時もあり、職員が買い物に行き利用者と一緒におやつ作りをしたり、施設の菜園で収穫した野菜を食し楽しい時間の提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者に委託し定期的に給食会議を開催しています。嗜好調査や医療的に問題はないか等をふまえ、量や味付け形態に工夫して提供しています。また、食事飲水量のチェックにて状態把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助や見守りにて支援を行っています。また、歯科往診を毎週行っており、口腔ケアについて、歯科医・歯科衛生士にアドバイスを頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメント情報等を基に個々の状態把握に努めると共に、チェック表を活用して排泄の有無・パターン・排尿便の状態確認を行っています。また、移動時は定時排泄、声掛け誘導、目視を強化しています。	排泄チェック表やアセスメントシート(初期評価表)を参考にトイレでの排泄を誘導し自立にむけた支援をしている。日中は皆布パンツを使用しているが、夜間はリハビリパンツも使用し随時誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給にも心掛けたり、乳製品・食物繊維の摂取を促しています。運動も適時行っています。それでも改善されない場合は主治医と相談し適切な対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ週3日曜日を決めさせて頂いていますが、お誘いした際にご本人様が拒否された場合は翌日に変更する等の対応をさせて頂いています。	週3回を基本として体調に合わせて入浴支援に努め、拒否する人には足浴や利用者のタイミングに合わせて翌日にしたり工夫をして清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間は決まっておらず、各々の習慣やリズムで対応しています。自室に限らず、個々の落ち着ける場所でゆっくり休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を参照し、職員共通の理解をしています。服用の仕方も工夫して(オブラートの使用や錠剤を粉砕する)誤薬、服薬忘れのないよう確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク活動や工作、畑仕事、歌、調理の手伝いなど提供しています。会話も多くされその中から色々な事が引き出されるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の状況に合わせて、敷地内の庭園や近所のスーパー等へ出掛けられる様に支援しています。また、ご家族様の行事等にご本人様も一緒に外出させて下さっています。	日常は近くを散歩したり施設の菜園を散策したりしている。季節行事で鶴見緑地やバラ園に出かけ、家族の支援でスーパーに買い物に行ったり外食に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本にご家族様がされている方が大多数で、外出先でご本人様が購入を希望された物については施設で立替をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけて頂いたり、文章を書く機会を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間であるが明るい雰囲気が出るように装飾をしたり危険がない様に配置に気を付けるようにしています。	日当たりの良いリビングの天井には楽しそうな色紙の飾り付け、壁には利用者の作った折り紙や絵や習字が貼られていて季節のを感じる出来る。テーブルが並べられソファコーナーもあり寛げる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り談笑されたり、テレビ、新聞を自由に見られている姿があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物を自由に準備されています。	明るく広い居室には箆笥やベッドが持ちこまれ、衣類や日用品は大きなクローゼットに収納されていてスッキリとしている。ぬいぐるみ・写真等が置かれその人らしい部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所がわかるように目印の設置をしています。また、何度か共に行動し解るようになっています。		